

人工衛星を撮る2 イリジウムフレアー!!

イリジウムフレアー！と、カッコいい名称ですが、特撮ヒーローの必殺技の名前ではありません。

衛星携帯電話を実現するためイリジウムという名前の数十個の衛星群が高度 800Km の軌道を回っています。

この衛星には、置くらしい大きさの銀色のアンテナが 3 枚備わっていて、鏡のように太陽光をよく反射します。

わかりやすくいうと、冥王星の周りを回っているガミラスの反射衛星砲のミラー衛星のような感じで、衛星のアンテナパネル(鏡面)が観測場所から見て太陽光をうまく反射する位置関係になると、衛星が非常に明るく輝いて(最大マイナス 8 等星)見えるということです。この衛星の輝きをイリジウムフレアーと呼んでいて、なかなか楽しい人工衛星イベントとなっています。

それではイリジウムフレアーが、いつ見えるのかというと、web 上で予報してくれるサイトがいくつもあって、観測に役立てることが出来ます。

<http://www.heavens-above.com/>

<http://www.calsky.com/cs.cgi/Satellites>



ただ、あくまで予報であって、人工衛星の位置はほぼ正確なのですが、どのくらい明るくなるのか光度の予報の信頼性は当たり外れがあります。

しかし、回っている衛星の数が多いので、フレアーが見える頻度は平均 2 日に 1 回程度はあって、何回か見ているうちに、そのうち見事なフレアーに会うことができます。



普段のイリジウム衛星は 6 等星くらいの明るさなのですが、軌道を動くうちにアンテナが太陽光を反射する角度に近づいてくると徐々に光度を上げていきます。やがて最大光度に達し、その後だんだんと暗く元の光度に戻っていきます。その間の時間は約十数秒で、例えば観望会のときにこの現象があるということがわかっていたならば、みんなで予報位置を眺めながら人工衛星が現れるのを待ち、見事、フレアーすると、歓声が上がるのは間違いありません。

また、写真に撮るのもとても楽しくて、いつ出るかわからない流れ星を待つよりも、出現位置を予想して構図を取ることができるので、目的に叶った写真をモノにすることができます。

しかし、先月にお話したとおり、人工衛星が期待する位置を通過するのはそうそう無いことなので、まめにチェックして機会を狙うことが必要になります。

ただし、イリジウム衛星は今後世代交代が進むことになっており、次世代衛星は鏡のようなアンテナは持っていないということなので、イリジウムフレアーの写真が撮れるのは今のうちということになります。さて、どんな構図で狙いましょうか。

園芸が大好き NAOKO☆宇宙アサガオのその後

この春から育てていた Naoko☆宇宙アサガオは、ベランダの植木鉢に植えていたこともあって、水やりの不足で一時は危機に瀕しましたが、その後8月末から9月にかけて盛大に花を咲かせ、ピークには毎日一鉢に15個くらいの花をつける賑わいになりました。ベランダでは昆虫があまり来ないので受粉がうまくいくのかという心配も取り越し苦労で、その後順調に種が育ち、写真のような豊作となりました。これで2鉢分の種であります。

10月末でだいたい収穫が終わったので、これを脱穀？してみたところ約800粒もありました。ご先祖様が宇宙旅行をしてから7代目の子孫となりますが、来年もきれいな花を咲かせますように、しばし冬眠であります。



メカが大好き bluetooth キーボード

スマホでの文字入力は、最近の若い人はフリック入力ですイスですが、私にはどうもうまくいきません。配置が慣れた QWERTY のソフトキーで入力しているものの、キーピッチが狭いため誤入力しがちで、短文を打つのが精一杯であります。

そこで、長文入力を手軽に出来るようにと、秋葉原で小型のbluetoothキーボードを買ってきました。

これで入力がとても楽になりましたが、今度はスマホの画面が小さすぎて見づらいヨ・・・やれやれ。



Books & CDs 日本経済新聞 10月30日版文化面

職場での昼休み、いつものように新聞を漁り読みしていて、あつと気づかされる記事に行き当たりました。

そこには、コメットハンターの関勉氏が、彗星や小惑星の発見に取り組んだ半生を振り返る記事が掲載されていたのですが、なぜ唐突に今この記事なのかと思ってみたら、あの池谷関彗星の近日点通過から今年でちょうど50年になるということでした。(近日点通過は1965年10月21日でした。)

私の年代では、池谷関彗星はライブでは知らないのですが、後年に夜空を彩る大彗星の代表としていろいろな書籍で紹介されているのを見て、宇宙へのあこがれを掻き立てられたものでした。

天文雑誌では殆ど触れられていなかった話題なのに、いや、さすが日経であります。



編集雑記

今回は、2回連続の人工衛星ネタとなりました。これまでISSの拡大撮影なども狙っていましたが、星野

の中を通過していく人工衛星という視点もとても面白いということを再認識しました。

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com